

# 平成28年度 第1回地方分権改革の旗手会議 概要レポート



勢一智子 地方分権改革有識者会議議員・提案募集検討専門部会構成員による  
基調講演後の集合写真

平成28年9月15日・16日



内閣府地方分権改革推進室

## 会議、ワークショップの状況

### 新任者等向け説明会（岩間参事官）

※希望者12名を対象に、会議当日の午前中に開催。

- ・「地方分権改革の歩みと現状」及び「提案募集方式のポイント」について、事例やエピソードを織り交ぜて解説しました。
- ・提案の実現性を高めるために重要な要素となる支障事例について、具体的な着眼点を挙げて説明しました。



### 開会挨拶（境次長）

- ・地方分権は未完の改革であり、長く続けることが大事。
- ・提案募集方式は、従来の委員会勧告方式よりも、現場の問題意識や改革実現に向けた熱意、知恵・能力の総合力が試されることとなる。
- ・各省の制度を改革するためには、省庁からの反論等に耐える状況も覚悟することが必要。
- ・旗手の皆様には、旗振り役として反論等に立ち向かうだけでなく、後に続く人に向けて分権の風を起こしていただきたい。
- ・国としても旗手の熱意を後押しするよう全力で応援していきたい。



### 地方分権改革推進室からの説明

#### 1) 平成28年提案募集の状況等について（五味参事官）

- ・平成28年提案募集の状況の他、提案募集方式の改善状況やこれまでにいただいた意見に対する内閣府の見解を一問一答形式で丁寧に説明しました。
- ・提案の実現数・実現率の向上に向けて、共同提案の活用や、提案団体のすそ野の拡大等の必要性について説明しました。



## 2) 平成 29 年提案募集に向けた情報発信・研修の取組方向について（岩間参事官）

- ・ 地方分権改革の旗手アンケート調査結果の概要について説明しました。
- ・ 地方分権改革のすそ野を広げるために、平成 29 年提案募集に向けた情報発信・研修の取組方向として、キーパーソンの確保、関係者の意識改革・提案力の底上げ、提案検討を後押しする多様な情報発信について説明しました。



## ワークショップ（取組事例の紹介）

### 1) 兵庫県

「県・市町連携提案」など独自の取組とあわせて、地方分権を進める視点として

- ・ 地方分権担当課が自ら汗をかき、提案できそうなアイデアを事業担当課に提示することが重要であること
- ・ 関係団体の要望や住民の声が支障事例を見つける糸口となること
- ・ 現場で住民や事業者と接する市町村との連携が大切であること

の報告がありました。

### 2) 松戸市

- ・ 従来から行っている職員提案制度の特別編として、地方分権改革に関する提案募集制度を行っていること
- ・ これを組織的に進めるため、内閣府の講師派遣を活用して、各担当の職員が参加した研修会を実施したこと

の報告がありました。

### 3) 豊田市

チャレンジを大切にする風土づくりの観点から

- ・ 提案募集方式を積極的に活用し、3年連続で提案を行ったこと
- ・ 提案した職員を市長が表彰したり、職員報で成果を周知するなど、職員の意識向上に力を入れていること

の報告がありました。



(左上) 兵庫県広域調整課 綿井主幹  
(上) 松戸市行政経営課 青砥補佐  
(左) 豊田市経営戦略室 社本主査

**基調講演** (西南学院大学 勢一智子教授 (地方分権改革有識者会議議員・提案募集検討専門部会構成員))

- 提案募集方式の導入により、改革のイニシアチブが国から地方に移され、地方が主役となったこと。
- 上記の攻守交替により多様性を活かした自治が可能となったことに期待を寄せるとともに、同方式の効果をさらに高めていく観点から、分権の種の在処、地方創生や広域連携との相乗効果

について熱く語っていただきました。



**ワークショップ (ディスカッション)**

<1日目>

各自持ち寄ったアイデアを付箋紙に記入して模造紙に貼り付け、これをもとに班内で活発な意見交換を行い、アイデアをまとめました。その後、各班のアイデアについて、それぞれ発表してもらいました。

1班



2班



3班



4班



<2日目>

参加者による投票、班別討議を経て最終的にレポートにとりまとめ、各班より発表を行いました。発表後には、地方分権改革推進室より講評がありました。

【講評での主なコメント】

- 皆さんの発表などを聞いて、分権室の外にも頼もしい味方がいるという、同志を得た気持ちで大変感謝。
- 研修、分野別ワークショップ、改革カフェ、アーカイブなど素晴らしいアイデアをたくさんいただいたので、分権室としても取り組めることを検討していきたい。
- 住民をどう巻き込むかという点で、分権に関心のない人にも成果から話をすると理解を得やすいことが多い。そのような情報発信にも力を入れていただきたい。



投票



1班発表



2班発表



3班発表



4班発表



講評

### 閉会挨拶（横田次長）

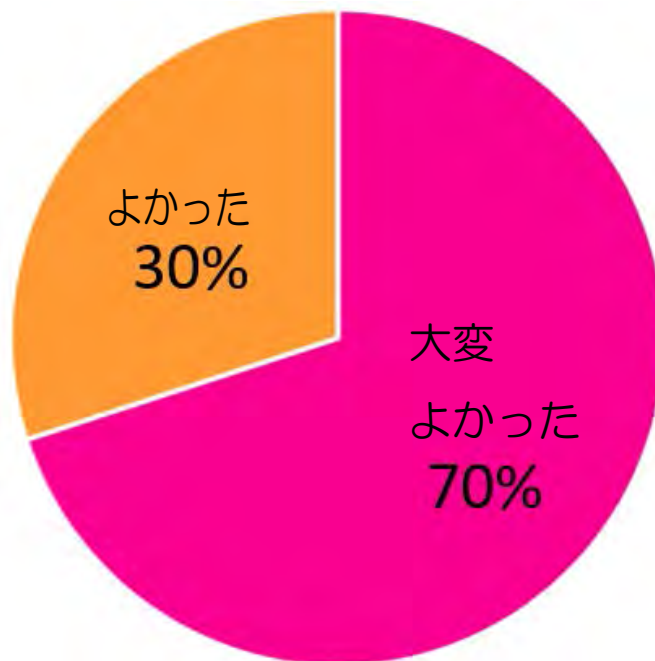
- 行政の仕事は、法律等の制約の中で何とかやりくりする発想になりがちだが、その制約を変えることができるということをまずは認識してもらうような意識改革が重要。
- そういった意識改革の面で、旗手の皆さんが各々の自治体で頑張っていただければと思うし、分権室としても皆さんの意見等を踏まえて今後の取組を改善していきたい。



## 【参考】

### 参加者のアンケート結果

問 会議全般を通して



#### ○「よかった」と回答した方のご意見

- 実践的な内容で有意義な会議でした。
- できれば半日・1日単位で実施していただきたい。
- 遠方の自治体の方の都合もありますが、可能ならば1日が良いです。

#### ○「大変よかった」と回答した方のご意見

- 他県の取組状況など聞く機会にもなり、大変有意義だった。
- 持ち帰って今後の取組に活かせるようなアイデアを多く得ることができた。
- 各団体の担当者から、課題や悩み、団体独自の取組が聞けたこと。
- 分権改革についてのモチベーションが高まった。H28の提案の最中であるが、H29に向けても取組を進めていきたい。
- 充実した2日間だった。
- 一人一人の意識がとても高く、大変刺激となりました。また、皆、同じ悩みを抱えながらもそれを打開しようとするモチベーションを感じ、非常にうれしく思いました。
- 内閣府からのポイントの説明とワークショップによる意見交換がバランスよく、非常に良かったと思います。